

「子どもの貧困」という言葉が社会の中で注目され始めて約10年が経過した。今から5年前の6月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立し、翌年には「子どもの貧困対策に関する大綱」が示され今日に至っている。これらの成立の背景には、当事者である高校生や大学生たちによる運動があったことは忘れてはならない。岡山においても、学生団体「岡山ユースミーティング」の取り組みが、県内における契機の一つとなった。

山陽新聞において、これまで多くの子どもの貧困に対する特集や活動の紹介等がなされ、筆者もその影響をじかに感じてきた。直近では、子どもの日である5月5日の社説、6月15日の給付型奨学金に関する記事(内政・総合面)などがあった。たとえ小さな出来事でもいい、今後も継続して現

山陽新聞を読んで

川崎医療福祉大講師 直島克樹



子どもの権利の具現化を

状や対策等を伝えてほしい。そのことが1人、また1人と子どもたちを思う行動へとつながっていくはずである。

特に社説とも関連するが、地域の全ての子どもが、地域の全ての子どもの居場所となりつつある

の受賞作は「わたしは頼を社会で紡ぐことができない。そのことが子どもたちが社会の多くを背負っている(英国)であった。背景となる国や家族の姿と異なる国や家族の姿を背負っている必要である。は違いますが、共に現在の社会の在り方に大きな疑問を投げかけていると言え、多くの人が考え、子どもの貧困対策を

「子ども食堂」に関する厚生労働省の通知(6月28日付)も紹介する必要があると思う。都道府県知事や政令市・中核市長に向け、行政等との連携協力の根拠が示された意義は大きい。ぜひとも周知してもらいたい。

今年のカンヌ国際映画祭で「万引き家族」が最高賞を受賞(5月21日1面)したが、2016年

えさせられたのではなからうか。私たちは、子どもに、地方自治体の姿勢や取り組みがさらに問われ、いまだ貧困や孤立等で困難な状況に置かれる子どもたちが、独自の施策を構築する必要がある。特現化が、今まさに求められている。山陽新聞には、今後も社会の姿勢を問い、あらゆる状況にある子どもたちのパートナーであってほしい。

はさらなる展開を迎え保障していくことの特現化が、今まさに求められている。山陽新聞には、今後も社会の姿勢を問い、あらゆる状況にある子どもたちのパートナーであってほしい。

なおしま・かつき 岡山城東高、関西学院大卒。同大大学院博士前期課程修了(社会福祉学)後、児童家庭支援センター相談員などを経て、2013年より現職。子どもを主体とした地域づくりネットワークおかや代表、子どもの貧困対策センター公益財団法人あすのばアドバイザー、岡山市児童福祉審議会委員などを務める。岡山市在住。37歳。

「子ども食堂」に関する厚生労働省の通知(6月28日付)も紹介する必要があると思う。都道府県知事や政令市・中核市長に向け、行政等との連携協力の根拠が示された意義は大きい。ぜひとも周知してもらいたい。

今年のカンヌ国際映画祭で「万引き家族」が最高賞を受賞(5月21日1面)したが、2016年

えさせられたのではなからうか。私たちは、子どもに、地方自治体の姿勢や取り組みがさらに問われ、いまだ貧困や孤立等で困難な状況に置かれる子どもたちが、独自の施策を構築する必要がある。特現化が、今まさに求められている。山陽新聞には、今後も社会の姿勢を問い、あらゆる状況にある子どもたちのパートナーであってほしい。

はさらなる展開を迎え保障していくことの特現化が、今まさに求められている。山陽新聞には、今後も社会の姿勢を問い、あらゆる状況にある子どもたちのパートナーであってほしい。

「山陽新聞を読んで」は月2回、日曜日に掲載します。